

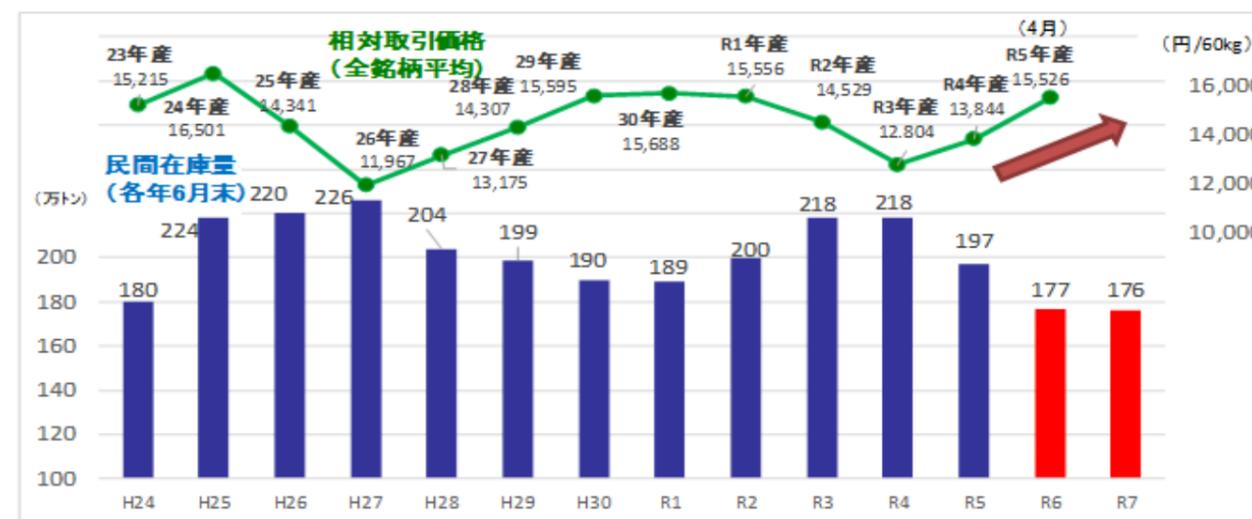
米 穀 情 勢

1. 主食用米の需給見通し（民間在庫量と価格動向の推移）

(1) 3月5日に開催された農水省食糧部会における「今後の需給見通し」では、令和5/6年の需要量が681万ト、令和6/7年の需要量が670万トと算出されています。また、6年産米の生産量は、令和5年産の生産量の見通しと同水準の669万トと設定されています。

(2) 上記により、6月末民間在庫は令和6年が177万ト、令和7年が176万トと減少する見通しとなっています。

【図表1】民間在庫量と価格動向の推移



2. 令和5年産主食用米の契約・販売状況（5月末）

(1) 令和5年産主食用米の5月末時点での契約数量は、180万ト（前年比99%）となっています。

(2) 一方で、販売数量は111万ト（前年比114%）と、前年産以前の持越在庫の減少により年産切替が早まったことや、コロナ5類移行後の人流回復による業務用需要の回復などを背景として、出回りから継続して前年を上回って推移しています。

【図表2】今後の需給見通し（3/5食糧部会）

(単位:万ト)			
項目	算式	数量	
R	5年6月末民間在庫量	A	197
5	5年産主食用米等生産量	B	661
/	供給量計	C=A+B	858
6	需要量	D	681
年	6年6月末民間在庫量	E=C-D	177
R	6年6月末民間在庫量	E	177
6	6年産主食用米等生産量	F	669
/	供給量計	G=E+F	846
7	需要量	H	670
	7年6月末民間在庫量	I=G-H	176

注) ラウンドの関係で加減が一致しない箇所がある。

【図表3】5年産主食用米の契約販売（全農）

年産	販売計画①	契約②	販売実績				6年6月以降 要販売 数量 ④=①-③
			出回り~3月	4月	5月	合計③	
5年	1,863	1,800	758	182	173	1,113	749
4年	1,916	1,827	689	146	141	976	940
3年	2,127	1,951	696	165	143	1,004	1,122
5/4	97%	99%	110%	124%	123%	114%	80%
5-4	▲53	▲27	70	36	32	138	▲191
5/3	88%	92%	109%	110%	121%	111%	67%
5-3	▲264	▲151	62	16	30	109	▲373

注1) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

注2) 販売数量は、実出荷ベース。

3. 令和6年産米等の作付意向

(1) 農林水産省が5月31日に公表した令和6年産米等の水田における作付意向において、主食用米について、令和5年産実績比較で減少傾向11県、前年並み25県、増加傾向11県となっています。

(2) 戦略作物について、加工用米・新市場開拓用米・米粉用米・WCS用稲・麦は、増加傾向の県数が減少傾向の県数を上回り、飼料用米・備蓄米及び大豆は、減少傾向の県数が増加傾向の県数を上回る意向となっています。

【図表4】令和6年産米等の水田における作付意向（4月末時点）

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	麦	大豆	
前年より増加傾向	11県 [5県]	20県 [17県]	26県 [19県]	20県 [17県]	1県 [3県]	25県 [18県]	24県 [17県]	7県 [5県]	5県 [2県]
前年並み	25県 [30県]	10県 [18県]	6県 [17県]	9県 [22県]	9県 [17県]	15県 [23県]	10県 [16県]	12県 [19県]	5県 [10県]
前年より減少傾向	11県 [11県]	14県 [8県]	6県 [1県]	16県 [5県]	36県 [25県]	6県 [4県]	11県 [11県]	26県 [20県]	21県 [18県]

※5/31農林水産省公表 第2回中間的取り組み状況より

4. 水田活用米穀に関する動向

(1) 令和6年度農林関係予算（水田活用交付金）の動向

令和6年度の水田活用直接支払交付金（戦略作物助成）における助成単価は、基本的に前年同額となっています。ただし、飼料用米（一般品種）については、6年産より段階的な見直しとなっています。

また、コメ新市場開拓等促進事業については、採択ポイントの高い新市場開拓用米（輸出用米）の申請増加等の影響により、加工用米の採択率は前年の87%から73%に低下しています。

(2) 品目別の動向

ア. 政府備蓄米

令和6年産政府備蓄米（買入予定数量205,509ト）は、最終回となる第7回入札（6月24日）までに172,016ト（優先枠154,962ト＋一般枠17,054ト）が落札され、落札残数量は33,493トとなりました。生産調整の取組強化の一服感もあり、応札意欲は低下し、落札数量は前年対比85%となりました。

イ. 加工用米

コロナ禍において、酒造用途は全体的な消費減、加工米飯用途は家庭用需要はあったものの業務用需要が低迷し、いずれも原料米需要は減少傾向となっていました。コロナ禍の行動制限の解消に伴う人流回復等により、製品在庫の一定確保も含め、原料米需要の回復傾向が見られます。

ウ. 米粉用米

社会的な経済活動の再開に伴い、新規需要米粉の製造量は回復傾向となっています。令和6年産に向けては、製品価格の値上改定、直近の輸入小麦の政府売渡価格引下げの影響等もふまえながら、実需者からの需要の裏付けをふまえた生産を実践していきます。

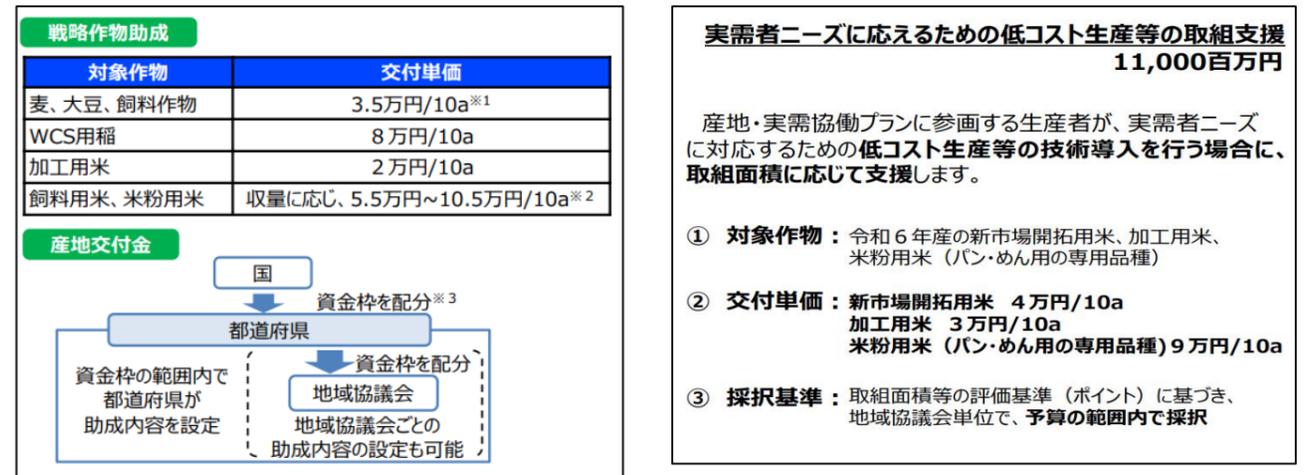
エ. 輸出用米

外食産業の需要回復に加え、米国加州の干ばつの影響による米国産中粒種（カルローズ）不足に伴う代替需要や海上運賃の安定化、円安などが追い風となり、令和5年（1-12月）の輸出実績は37千ト（前年比129%）と好調に推移し、令和6年に入ってから前年を大幅に上回って推移しています。

オ. 飼料用米

上記の予算措置を受け、令和6年産では大幅な生産減少に転じる見込みである一方で、海上輸送リスクや円安を背景に、国産飼料需要の継続的な需要も一定見込まれています。

【図表5】戦略作物助成・コメ新市場開拓等促進事業



【図表6】飼料用米（一般品種）への支援策の段階的な見直し

	5年産	6年産	7年産	8年産
一般品種	・数量に応じて、5.5～10.5万円/10a (標準単価8万円/10a) ※従来と同様	・数量に応じて、5.5～9.5万円/10a (標準単価7.5万円/10a) or ・単価7.5万円/10a	・数量に応じて、5.5～8.5万円/10a (標準単価7.0万円/10a) or ・単価7.0万円/10a	・数量に応じて、5.5～7.5万円/10a (標準単価6.5万円/10a) or ・単価6.5万円/10a

【図表7】コメ新市場開拓用米等促進事業の採択結果

事業	畑作物産地形成促進事業					コメ新市場開拓等促進事業			
	麦	大豆	高収益作物	子実用とうもろこし	計	新市場開拓用米	加工用米	米粉用米（パン・めん専用品種）	計
採択額	102億円	62億円	7億円	7億円	178億円	37億円	70億円	2億円	110億円
採択率	49%	48%	71%	90%	50%	100%	73%	100%	81%

※地域農業再生協議会等の推進事務費を含む